連載

書写指導の可能性を探る③

言語活動の充実を踏まえた書写の授業開発

―「話す・聞く」「書く」と関連させて

名古屋市立長良中学校　戸田（とだ）　真（まこと）

はじめに

新学習指導要領の三年生に「身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと」が新たに加えられた。私たちの生活圏内には文字があふれているが、それがあまりにも身近なために、風景の一部としてとらえてしまいがちである。活字などを効果的に利用することに関心をもったり、手書き文字のよさを見直したりすることは、文字文化（言語文化）に関する認識を改めて形成する重要な活動だといえよう。

この実践では、校内や校外などで多くの活字（フォント）や手書きの文字を集め、分類してその効果を考え、今までの学習を総合した発表会を行うことで、生徒が効果的に文字を書き、文字を書く「楽しさ」を追求できると考えた。

また、全十一時間のうち、第5時までを書写の時間で、第6～11時を国語の時間で指導した。国語との関連では、ワークシートを利用した「書く」活動、調査した結果を発表し合う「話す・聞く」活動といった言語活動と積極的にリンクさせ、今までの書写の既習事項と国語科全般の学習を総合した学習に取り組むことで、「文字を書く喜び」「自己表現力」を大切にしながら、文字文化を理解することを目指した。

なお、この「身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと」は三年生の内容であるが、休み中の課題も設定した関係で、時間的にゆとりのある二年生で指導した。

指導の流れ

■**指導計画**（11時間＋課題）

時	学習活動	指導上の留意点
1	【文字の意識調査】	・手書き文字や活字の特徴を踏まえ、使われている場所やその理由、手書き文字を使用する機会や必要性を考えさせる。
2	【校内文字探検】 校内から、多くの手書き文字や活字文字を見つける。 【校外文字探検】	・身の回りの多様な文字に興味・関心をもたせる。 ・手書き文字と活字の使い分けを調べ、その特徴を理解させる。 ※ゴールデンウィーク課題
3	【文字探検の集約】 集めた文字を種類ごとにまとめる。	・場面や目的などに応じて手書き文字と活字文字を使い分けていることを理解させる。 ・手書き文字と活字の効果について理解させる。
5・4	【文字の効果のまとめ】 プレゼンテーション形式にまとめる。	・調べたこと、わかったことなどをわかりやすく一枚の紙にまとめさせる。
6	文字探検発表会でのスピーチの仕方についての学習 ワークシート①	・次時のスピーチ原稿の構成を意識させ、スピーチの仕方を考えさせる。 ・教師のスピーチを通して、「正しく」聞き取り、「自分らしく」話す方法を身に付けさせる。
7	文字探検発表会のための「組み立てメモ」作成 ワークシート②	・相手にわかりやすく、個性的に話すために、「何を」「どのように」話すかを考えるための「組み立てメモ」を書かせる。
8	スピーチ原稿作成 ワークシート③	・身の回りの多様な文字に興味・関心をもたせる。 ・手書き文字と活字の使い分けを調べ、その特徴を理解させる。
10・9	【文字探検発表会】 グループでの発表会と、自己評価・相互評価 ワークシート④	・プレゼンテーション形式で発表させ、その後、交流により自分の考えを深めさせる。 ・今までの学習内容や、「話す・聞く」「書く」活動の自己評価・相互評価をさせる。
11	学習の振り返り	・文字の見方・考え方について、自分なりの考えをもたせる。

■**夏休み課題**
①字源・語源調べと外国の文字調査
②暑中見舞い葉書を書く

授業の実際

全体を詳説するスペースはないので、指導の要点と生徒の反応を中心に取り上げる。

第2・3時　文字探検と集約

生徒たちは、最初はめんどくさがっていたが、次第に「楽しさ」に変わり、次回の課題や学習に期待をもてるようになった。また、他国（異文化）の文字にも興味をもつようになったり、手書き文字と活字それぞれの「意味」を感じ取ることができたという成果もあった。その反面、文字が日常生活にあまりにも密着しすぎていて、意識や興味がもてない生徒の姿も見られたのは今後の課題である。

第4・5時　文字の効果のまとめ

文字探検発表会でのプレゼンテーション資料づくりを行う。四つ切り画用紙を

▼「文字探検」をまとめたプレゼンテーション用の生徒作品

使い、新聞形式はじめ、視覚に訴えるようなさまざまな形式でまとめさせる。

▼生徒のコメントから

・文字のことを意識して見ていると、思ったより文字の形や種類が多く、色や大きさの工夫もあり楽しくなった。

・身の回りにはたくさんの文字があることがわかった。車や看板、地面など見渡す限りたくさんの文字があって、それら全てに意味があり、人々に何かを伝えていて、文字はとてもすごいものだなと思った。

第6時 文字探検発表会のためのスピーチの仕方の学習

本時から第10時の発表会までを四段階に分け、それぞれワークシート（※）を利用した「書く」学習を取り入れた。

教師のスピーチを聞き取る学習を通して、「正しく」「自分らしく」聞く方法を身に付けさせる。本時のワークシートでは、

①「へぇー」「そうだったんだ」（新たな発見、関心・意欲・態度）
②「上手だな」「説得力があるな」「自分もまねしてみたいな」（わかりやすく論理的な説明技術）
③「とても先生らしいなあ」（その人らしさの発見と共感、人間的な想像力）
④「あれ」「どうしてかな」「もっと聞いてみたいな」（もっと深めるための疑問・質問）
⑤「こうしたほうがもっとよくなる な」（これからの学習に生かすための課題発見・批評する力）

といった観点に分けてメモをさせる。

第7・8時 発表会のための「組み立てメモ」「スピーチ原稿」

相手に「わかりやすく」「個性的に」伝えるための原稿を書くために、経験や感想などを整理させるワークシートを使った。

①文字について知っていること、大切にしていること
②そのことで何を伝えたいか
③それがよくわかるエピソードは「特徴」「思い出」「出会いのきっかけ」など
④モデルを示し、自分なりの組み立てを考えさせる

■「組み立てメモ」のモデル

構成	ポイント	内容（簡単に）
はじめ	話題の提示	手書き文字・活字との出会い。
なか1	文字との出会い	校内・外文字探検のとき、○○で出会った。
なか2	エピソードやそのときの様子（二つ）	手書き文字は、書いた人の気持ちを相手に伝えられることを知った。 活字は、形が整っていて見やすいことを知った。
なか3		手書き文字との出会いまとめ 思い・考え が今の自分の心を支えている。
むすび	今後の思い	これからもずっと大切にしていきたい。
題名	思い・判断	今の自分の心を支えている手書き文字との出会い。

※本実践で使用したワークシートは、愛知教育大学の佐藤洋一教授の説に基づいて筆者が作成したもの。

第9・10時 文字探検の発表会（プレゼンテーション形式）

▼生徒の反応

・交流のときに質問を受け、そこからいろいろな考え方を知ったので、さまざまな角度からものを見られるようになりたいと思った。

・校外文字探検のとき、お店の人などにインタビューをすればもっと文字の特徴などをつかむことができ、級友からの質問に答えることができたのではないかということに気づいた。

・発表のとき、緊張して声が小さかったのでもっと自分に自信をもちたいと思った。

・発表のとき、もっと自分らしい言葉で説明できるようにしたほうがよかったと思った。

第11時 学習の振り返り

▼生徒の反応

・自分が経験した書写の授業と全てが違っていて、とても印象に残った。

・書写の授業なのに、スピーチの仕方（話し方）が勉強できたことに驚いた。

・文字の発表会で級友のスピーチを聞いたとき、自分が校外文字探検で調べたときよりも、もっと興味・関心がもて、「文字っておもしろいな」と思った。

・外国の文字探検（調査）もしてみたいという意欲が湧いた。

・文字の歴史にも興味をもつことができた。

・小学校の書写の授業は、手本をただ写すだけでつまらなかったので、今回の学習も、最初は全然魅力を感じなかった。しかし、学習を積み重ねるうちに今までにない魅力を感じるようになった。普段あまり行く機会がない図書室に行き、興味のある本の中から文字を見つけたり、校外文字探検で見つけた文字を種類ごとにまとめたり、文字の発表会の交流の場面で、級友の発表のよかったところや改善してほしいところを言い合ったり…など、これまでに経験したことがない「これって本当に書写の授業なの」という感覚になった。

一学期を振り返ってみて、今は「自分は成長したな」という自信をもてている。

3 おわりに

今回の実践全体の大きな成果の一つは、文字調査や集約などの活動を通じ、自分がどのように課題を解決していったらよいかという見通しをもって、生徒が主体的に取り組むことができたということだ。

また、この実践を終えたとき、生徒たちから「もっと字がうまくなりたい」「大人字（行書）が書けるようになりたい」という声が上がり、文字に対する興味が膨らみ、書字への意欲が湧いた。これを受け、二学期では行書の特徴やルールなどの基礎・基本にもう一度取り組み、そこから日常生活への応用につながるような指導に取り組んでいきたいと考えている。

このように、これからの書写指導では、文字への興味・関心を大切にしながら、文字言語によるコミュニケーション・リテラシーの育成を目指す研究、実践を考えていく必要があるのではなかろうか。